

江戸生艶気棒焼

山東京伝作 北尾政演画 天明5年(1785)刊 蔦屋重三郎版

【概要】



正本を読みふける艶二郎



刺青を入れる艶二郎

百万長者の息子艶二郎 色男になりたくて、刺青を入れたり、恋人役に芸者を雇う。家内の者たちはそんなはずはないと不思議に思う。色男の噂は広まらず、読売を雇い江戸中売らせる。それでも噂にもならず、艶二郎・北野紀之介・悪井志庵は吉原で遊女浮名と遊ぶ



(上)

1. 百万長者の仇気屋の一人息子艶二郎 年は19.20生まれつき色恋沙汰が好みで 新内節の正本など見て 新内節に出てくる色男に憧れる「こういう身の上になったら、さぞ面白からう」
2. 艶二郎と、近所の道楽息子 北野紀之介・悪井志庵 3人で浮気なことを工夫する
3. 彫り物が浮気の始まりと刺青をする いかにも色恋沙汰があったように思わせようと、やたらに体中に彫り散らし、掘っては消す小細工は、全て喜之助の発案 痛いのを堪えて ここが命だと喜ぶ艶二郎「色男になるも、とんだつらいものだ」
4. 恋人役に芸者を50両で雇う
5. 家内の下女たちは、「うちの若旦那に惚れるとは変わっている」と 芸者”おえん”は注文通りの台詞を並べる 番頭はおかしいと思い、父親は艶二郎が頼んだとは知らず、芸者を気の毒に思い意見する
6. この噂、さぞ広まっているだろうと思う艶二郎 誰も知らず 読売を雇い江戸中売らせるも、噂好きの女中衆は「みんなこしらえ事さ」読もうともしない
7. 世間では艶二郎の噂で持ちきりだろうと思って町内でさえ知らぬ 北野紀之介・悪井志庵を素人太鼓持ちとして連れ吉原仲の町 引手茶屋にやってくる
8. 相手を浮名屋の浮名という遊女に決める

(中)

女郎買いをしても妬いてくれる人がないと面白くないと妾を雇う。女郎屋では間夫が色男だと思ひこみ、悪井志庵を大尽客に仕立てて芝居。大門口につけられ芝居も打つ。妾宅では雇った妾に焼餅を焼かれて嬉しい。ご開帳に浮名と2人の名で提灯を誂える算段をするも断られる。色男はぶたれる物だと人を雇いわざとぶたれる。世間では金儲けの売名行為と言われ、艶二郎は勘当を志願。望みはかない勘当されると、薬研堀の名のある芸者に「勘当が許されるように」と裸足参りを頼む



大門口で「つけられ」の真似事 にやける艶二郎



雇われて裸足参りの芸者 早くしまいにしよう

9. 女郎買いに出ても、焼餅をやく者がいないと張り合いがないと妾を雇い、焼餅をやかせる
10. 悪井志庵を大尽客に仕立て、艶二郎は間夫気取りで、手洗い場の隣にある安部屋の煎餅布団に寝て、お目当ての遊女と人目を忍んで逢瀬を待つ 「この不自由なところが日本だと（当時の流行語）嬉しいりけり」
11. 大門口につけられ（新造・禿などが吉原の出入口・大門口で見張りをして、無断で他の遊女屋に通う不義理の客を捕まえ、制裁のために無理に連れてくること）、「外間がいい」と得意になる
12. 妾宅に帰り、思い入れたっぷりに焼餅を焼かれる艶二郎 「生まれて始めて焼餅を焼かしてみる。どうも言えねえ心持ちだ。もちっと頼む頼む」
13. 艶二郎は回向院の開帳に提灯を奉納しようと、北野紀之介に誂えさせるも、提灯屋は吉原の桜提灯で忙しいと断られる
14. 色男は芝居ではぶたれると、人を雇いわざとぶたれる。よほど馬鹿者だという浮名が立つ。
15. 艶二郎の売名行為 世間では欲得ずくの金儲けだとの噂を聞き、艶二郎は勘当を志願する。母親の口添えで期限付きで望みは叶う
16. 薬研堀の名のある芸者7.8人を雇い 艶二郎の勘当が許されるよう裸足参りをしてもらおう

(下)

色男のする「地紙売」を試みたく始める、面白い顔だと笑った茶屋の娘に惚れたと勘違い。心中こそが色男と浮名を身請けして心中する準備 吉原の2Fを壊して駆落ち 遊女屋には修繕代金を請求される。大勢に見送られ擬似心中の道行 途中で追剥ぎに出会い、アタフタ 2人は裸のまま家に戻る。父や番頭に意見される 浮名と夫婦となり末繁盛に栄る



追剥ぎにあい 艶二郎と浮名 裸の道行

17. 勘当とはいえ、母より金は送られ何不足ないけれど、浮気な商売をしてみたく「地紙売り」を始める
顔立ちに笑いをこらえる茶屋の娘 自惚れ艶二郎はまたも惚れられたと勘違い
18. 勘当の期限がきたが、日延してもらい、心中こそが浮気の権化と心中の準備
19. 浮名は嫌がるが、首尾よく終われば、好きな男と添わせると言われ渋々得心 素直に身請けしては色男でないと吉原2Fの櫓子（れんじ）を壊して駆落ち
20. 心中への道行 艶二郎と浮名は途中で追剥ぎに出会う
艶二郎「ここへ止め手が出るはずだ。どう間違ったかしらん 着物はみんな上げましょうから、命はお助けお助け もうこれに懲りぬ事はござりません」
追剥ぎ「此以後、こんな思いつきは、せまいかせまいか」
21. 追剥ぎに着ぐるみ剥がれて裸の二人
艶二郎「俺は本の酔狂でした事だから是非がないが、そちらはさぞ寒かろう。世間の道行は着物を着て最後の場へ行くが、こっちのは裸で家へ道行とは、大きな裏腹だ。」
浮名「ほんの巻添えて難儀さ」
22. 家に帰ると 父親と番頭に意見される 艶二郎は初めて 世の中を知り本当の人となり、浮名は顔の悪いのも不詳不詳 夫婦となる
今までの事を京伝に頼んで、草双紙にして、世間の浮気人の教訓と広めたい
父「若い頃は仕方がないが、以後慎めよ 北野紀之介・悪井志庵とは遊ぶなヨ」
父「恐ろしき泥棒とまで身をやつせし我々が工夫の狂言・・・」追剥ぎは父親と番頭であったとのオチ

山東京伝

1761年（宝暦11）	1歳	質屋を営む「岩瀬伝左衛門」の長男と誕生、本名「岩瀬醒」（いわせさむる）
1775年（安永4）	15	人気浮世絵師「北尾重政」に入門
1782年（天明2）	22	黄表紙「手前勝手御存知商売物」（てまえかってござんじのしょうばいもの）薦重と知り合う
1784年（天明4）	24	江戸生艶気蒲焼 黄表紙 山東京伝作画 * <u>図案集『小紋裁』手拭の図案集『たなくいあはせ』</u>
1785年（天明5）	25	江戸生艶気蒲焼 ・黄表紙 息子部屋・洒落本
1786年（天明6）	26	「通言総籙」（つうげんそうまがき）洒落本 * <u>図案集『小紋新法』</u>
1787年（天明7）	27	<u>*図案集『小紋雅話』</u>
1790年(寛政元年)	28	黒白水鏡 石部琴好作、北尾政演画 京伝過量料（戯作をやめようとするも薦重に止められる）
1791年（寛政3）	31	「娼妓絹籠」（しょうぎきぬぶるい）、「仕懸文庫」（しかけぶんこ）、「錦之裏」（にしきのうら）からなる洒落本三部作 寛政の改革統制の対象「手鎖」50日
		刑期後、京伝は作風を変え黄表紙「箱入娘面屋人魚」（薦重の「まじめなる口上」などを刊行。当時、町人出身の一流作家は山東京伝をはじめ数えるほどしかおらず、世の作家のほとんどが武士のため、出版統制令以後断筆する作家が増加。そのため、各版元の執筆依頼が、山東京伝のもとへ殺到
		晩年の山東京伝は、煙草用の小物販売店「京屋」を開いて大成功を収めた他、弟子の「曲亭馬琴」とともに「読本」でヒット作を出し合って読本ブームに火を付けるなど、多彩な才能を発揮し続けた
1815年（文化12）	55	考証随筆「骨董集」を刊行
1816年（文化13）	56	没 黄表紙217（挿絵のみは48）、洒落本29、読本26、合巻86

デザイナー山東京伝



印象的な艶二郎の鼻 黄表紙をいくつか「江戸の戯作絵本」で読んでみたけれど、絵と文章を見ながら、自分は必死に面白さを見つける 絵の中の人は誰なのだろうか？着物に紋で描かれていたりするが結構難解 艶二郎ダンゴ鼻はすぐにわかる

艶二郎・北野紀之介・悪井志庵の3人トリオは、江戸生艶気蒲焼の最後に父親に付き合っちゃダメよと言われたけれど、通言総籬 (つうげんそうまがき)にも登場する

天明四年（1784年）刊の手ぬぐいのデザイン集手拭合（たなぐいあわせ）

鴨鞭蔭〈かものむちかげ〉は国学者加藤千蔭 京伝鼻の案者

京伝本人は整った顔立ちだったが、自身を作中で登場させる際は、団子鼻が特徴の不細工に描くことが多く、「京伝鼻」と呼ばれ人気者だった（wiki杉浦日向子監修『お江戸でござる 現代に活かしたい江戸の知恵』）

京伝鼻キャラクターがあると、現代の私たちにとってもわかりやすい

京伝は、黄表紙・洒落本 晩年には合巻・随筆とさまざまな分野を手掛ける

手拭合（たなぐいあわせ）をはじめ、デザイン集も手掛けている。

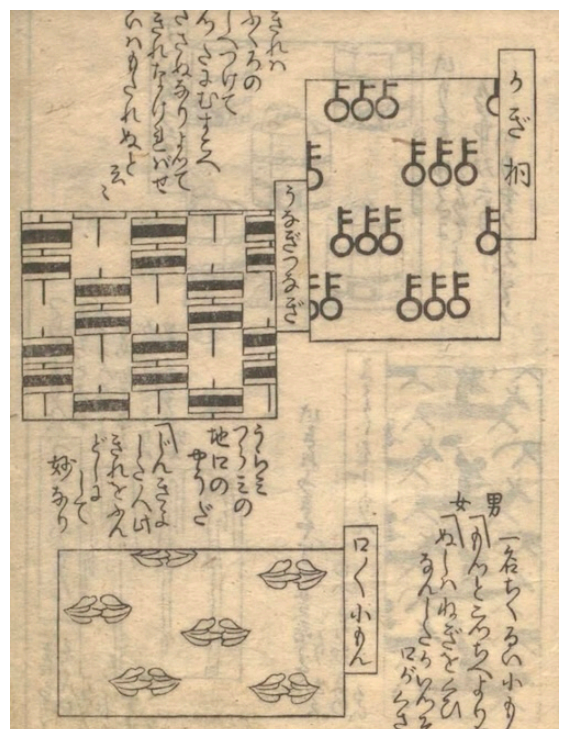
『小紋裁』（天明4）『小紋新法』（天明6）前編後編と小紋模様の見立て絵として発刊 『小紋雅話』（天明7）は、上記二つの増補版として出版されました

20回べらぼう「寝ぼけて候」に初登場する大田南畝 最初に登場した狂歌の会 お題は「鰻に寄する恋」 狂歌のお題に合わせて 大田南畝の着用着物 京伝の図案集

『小紋雅話』にある【うなぎつなぎ】

上記年表と合わせると、べらぼうの【うなぎつなぎ】を南畝が着てているのは天明元年くらい 【うなぎつなぎ】は『小紋雅話』（天明7）にしか登場しないので、年代的にはちょっと早い

江戸街中で京伝先生のデザイン【うなぎつなぎ】がすでに流行していたのでしょうか？



【おまけ】
見るだけで楽しいです

山東京伝の 小紋を扱っ
ている呉服屋さん
小紋屋高田勝
[https://komon.net/
brands/](https://komon.net/brands/)



山
東
京
伝
Komon
江戸の呉服業・山東京伝が制作した、
高田の小紋、鯉の小紋を
おたのしみください



たなぐいあわせ の手拭
いを扱っている 手拭屋
さん
浅草 ふじ屋
[https://tenugui-
fujiya.jp/traditions/
index.html](https://tenugui-fujiya.jp/traditions/index.html)

